



神奈川大学横浜図書館
2階ギャラリーから10号館側を望む
(所蔵資料展示風景と窓外の緑)

CONTENTS

- 本で楽しむ映画の世界 2 頁
- 横浜図書館2階ギャラリー展示報告&所蔵資料紹介
「ビゴーとワーグマン 日本を描いた二人の画家」 4 頁
- 洋書通信 6 頁
- 図書館の所蔵資料紹介
『太地浦捕鯨絵巻』(複製) 7 頁
- 図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記 8 頁

本で楽しむ映画の世界

初めて映画の興行が行われたのは1895年、パリで上映されたリュミエール兄弟による20分程の作品でした。この〈動く絵〉を観た当時の人々は驚愕したそうです。やがて映画産業が誕生し、人気俳優で観客動員を図るスターシステムが生まれ、音声のないサイレント映画からトーキー映画、カラー作品などへ変化と発展を続けました。現在ではハリウッドの大作映画からアート系映画、マニアックなカルト映画、ホラーやゾンビ映画などあらゆる分野の映画が制作され私たちを楽しませてくれます。

図書館ではDVDで映画作品を鑑賞することも可能ですが、映画に関する書籍は横浜、みなとみらい両図書館でたくさん所蔵しています。本で映画について知識を深めるのも楽しいのではないのでしょうか。



サイレント映画の黄金時代 / ケヴィン・ブラウンロウ著；宮本高晴訳 国書刊行会，2019

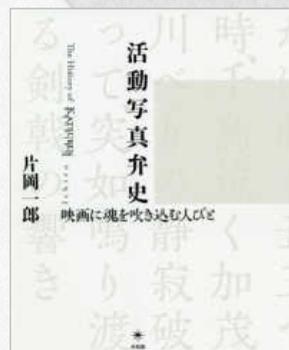
無声映画の時代、俳優のセリフはシーンの間に挿入される字幕で説明され、その演技は表情や身振りによって表現されていた。きらびやかなサイレント映画の時代を描いた作品。

請求記号：D778-793（横浜）

活動写真弁士：映画に魂を吹き込む人びと / 片岡一郎著 共和国，2020

日本では「活動写真弁士」と呼ばれる者が口頭で無声映画のストーリーを説明していた時代があった。日本映画史にとって重要な存在である活動弁士の貴重な資料である。

請求記号：D778-1285（横浜、みなとみらい）



血湧き肉躍る任侠映画 / 永田哲朗著 — 国書刊行会，2021

清水の次郎長から昭和のやくざまで。映画史に残る名優から極悪非道の悪役まで、任侠映画の魅力を語りつくす。

請求記号：D778-1282（横浜）



夢みる部屋 / デヴィッド・リンチ、クリスティン・マッケナ著；山形浩生訳。 — フィルムアート社，2020

デヴィッド・リンチは1990年に放映され社会現象になったテレビドラマ『ツイーン・ピークス』の監督。他にも『エレファントマン』『ワイルド・アット・ハート』などの映画作品で知られ、その独特な作風は常に話題になった。本書は自身の言葉と周囲の人々によるユニークな自伝である。

請求記号：D778-1280（横浜）





ジョージ・A・ロメロの世界：映画史を変えたゾンビという発明 / 大久保潤編集。— Pヴァイン, 2021 (Ele-king books).

監督作『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』は1968年公開、ゾンビ映画の金字塔とされている。2016年にはニューヨーク近代美術館で4K版が公開された。ゾンビ映画はこの監督から始まった。

請求記号：D778-1369 (横浜)

ハリウッドのルル / ルイズ・ブルックス著；宮本高晴訳 国書刊行会, 2023

サイレントからトーキー時代を生きた伝説のフラッパー女優、ルイズ・ブルックス。本書は1985年に亡くなる前の1982年に刊行された自伝である。

請求記号：D778-1511 (横浜)



ニューヨーク1997：ジョン・カーペンター映画術 / ジョン・ウォルシュ著；富永晶子訳。— DU BOOKS, 2021

近未来アメリカを舞台に描いた1980年代の傑作SF映画。全域が監獄になったマンハッタン島に大統領専用機が墜落し、カート・ラッセル演じる囚人スネーク・プリスキンを時間内の救出を命じられるというストーリー。公開40周年記念として出版されたメイキングブックである。

請求記号：D778-1376 (横浜)



メタモルフォシス：リック・ベイカー全作品 / J・W・リンズラー著；北川玲訳。— 河出書房新社, 2021

ハリウッドで50年間特殊メイクを手掛けたリック・ベイカーの全ての仕事を収録。マイケル・ジャクソンの『スリラー』『メン・イン・ブラック』など図版、イラスト1800点を収録。

請求記号：D778-1,2-1470 (横浜)

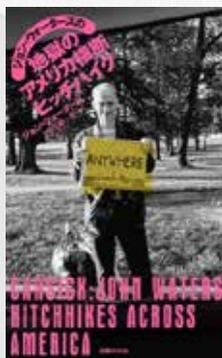


番外編：

ジョン・ウォータースの地獄のアメリカ横断ヒッチハイク / ジョン・ウォータース著；柳下毅一郎訳。— 国書刊行会, 2022

ジョン・ウォータースは史上最低の悪趣味映画と言われる『ピンク・フラミンゴ』で知られる映画監督。ジョニー・デップの初主演作『クライ・ベイビー』も監督した。本書はそんな映画監督のヒッチハイクの記録。

請求記号：D778-1367 (横浜)



ビゴーとワーグマン 日本を描いた二人の画家



ジョルジュ・ビゴーとチャールズ・ワーグマンは幕末から明治にかけて日本に滞在した画家です。ビゴーは浮世絵にあこがれてフランスから、ワーグマンはイラストレイテッド・ロンドン・ニュースの画報特派員としてイギリスからやってきました。二人は日本で諷刺漫画誌を刊行したことでその名を知られ、ワーグマンは1862年に『ジャパン・パンチ』の刊行を開始、1882年に来日したビゴーは1884年に『TOBAE (トバエ)』を刊行しています。

横浜図書館では4月から6月にかけてビゴーとワーグマンの作品や開港期の横浜にゆかりの深い人物に関連した展示を行いました。今回の展示で紹介した資料を紹介いたします。

ジョルジュ・ビゴー『クロッキ・ジャポネ』1886年

Croquis Japonais / par G. Bigot

請求記号：A730.8-2 (貴重資料)



ビゴーによる四作目の銅版画集。ビゴーの作品の中でも最高水準を示すものとされる。風刺新聞『TOBAE』などで鋭い批判精神を持って日本の社会を諷刺した画家ビゴーとは異なる温かい眼差しで学生、薬売り、下駄の歯入れ屋、役人、花魁、など様々な職業や市井の人々の姿が描かれている。

“東禅寺事件 オリファント、モリソン両氏への襲撃” / チャールズ・ワーグマン (原画)

イラストレイテッド・ロンドン・ニュース 1861年10月12日号

請求記号：PA053.5-9 (貴重資料)



イラストレイテッド・ロンドン・ニュースは1842年にイギリスで創刊された挿絵入り新聞。画報特派員として来日したワーグマンは英国公使オールコック一行とともに東禅寺に到着した翌日、水戸の攘夷派浪士の襲撃を受けた。ワーグマンが目撃した襲撃現場のスケッチと体験記はロンドン・ニュース宛に発信され、銅版画として掲載された。



チャールズ・ワーグマン『ザ・ジャパン・パンチ』

The Japan Punch (1862-1887)

請求記号：PA053.5-10 (貴重資料)



発行者チャールズ・ワーグマンの出身国、イギリスの諷刺漫画雑誌“Punch or the London Charivari”をヒントに 1862 年横浜で創刊された。幕末の日本や横浜居留地の中で起こった事件、日常生活などが描かれ、居留地の外国人は自分たちの顔見知りか似顔絵で誌面に登場するのを楽しんだ。その面白さは口コミで伝わり、居留地に住む外国人だけでなく旅行者の手土産としても売れ、500 部位が印刷されたという。

毎号表紙に描かれたキャラクターは Mr.パンチあるいはパンチの守(かみ)という名のワーグマンの分身である。創刊号から 1883 年までは木版印刷、以降 1887 年の最終号までペン画によるリトグラフで印刷された。

メルメ・ド・カシオン編『仏英和辞典』1866 年

Dictionnaire français-anglais-japonais / composé par M. l'abbé Mermet de Cachon -- Paris : Firmin Didot frères, 1866

請求記号：A853-95(貴重資料)

メルメ・ド・カシオン (Eugène-Emmanuel Mermet-Cachon, 1828-71 頃) はフランスの宣教師。1864 年に赴任したフランス公使ロッシュの通訳に任命され、その腹心として幕末の外交で暗躍し、『ジャパン・パンチ』にその姿が悪魔メフィストフェレスに例えられ何回か登場している。当時日本に滞在する外国人の中で最も日本語に堪能な一人だったと言われ、1865 年横浜にフランス語学校「横浜仏語伝習所」が開校されると初代校長に就任し多くの子弟を指導した。

本書は当初複数巻で刊行する予定であったが、未刊のまま「A-E」までで終わっている。カシオンが箱館に滞在中の 1859 年に編纂された。



フェリックス・ベアト『フランス山からの横浜居留地』1890 年

View of the foreign settlement at Yokohama from Yatozaka

請求記号：B092.2-180(貴重資料)

『ジャパン・パンチ』に“コロジオン伯爵”としてたびたび登場するのがワーグマンの親友、写真家フェリックス・ベアト (Felix Beato, 1834-1908) である。コロジオンとは写真に使用する「コロジオン湿版」からつけられたあだ名。ベアトは撮影で世界中を訪れ、最も早い時期に東アジアを撮影した写真家と言われている。またクリミア戦争に従軍し戦場の撮影を行うなど、報道写真家の先駆者とされている。横浜では写真家としての活動のかたわらワーグマンと写真・複製面販売会社を設立するなどした。

写真は横浜山手のフランス山から谷戸坂を撮影したものである。



※横浜図書館2階ギャラリーでは定期的に企画展示を行っています。ぜひご覧ください。

洋書通信

本学図書館の開架に並んでいる本は日本語で書かれた本が多く、外国語で書かれた書籍はあまり目にすることがないかもしれません。しかし、地下書庫や集密書架には外国語で書かれた書籍が多数配架されています。洋書は個性的な装丁の本も多く、思ったよりも簡単に読める本もたくさんあります。

特におすすめの洋書を紹介します。

The Thursday murder club / Richard Osman -- London : Viking, 2020

請求記号 : C933.7-2050 (横浜 2F 洋書)

The man who died twice : a Thursday murder club mystery 2 / Richard Osman

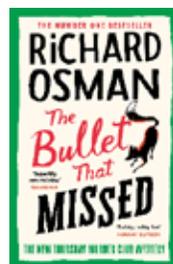
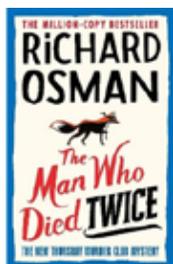
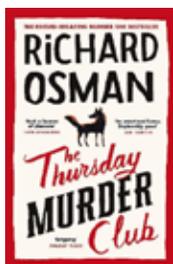
-- New York : Pamela Dorman Books, Viking, 2021

請求記号 : C933.7-2064 (横浜 2F 洋書)

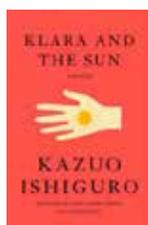
The bullet that missed : a Thursday Murder Club mystery 3 / Richard Osman

-- London : Viking, 2022

請求記号 : C933.7-2065 (横浜 2F 洋書)



※世界的ベストセラー「木曜殺人クラブ」シリーズ。イギリスのリタイアメント・ヴィレッジで暮らす老人四人組が未解決殺人事件に挑むユーモアミステリー。



Klara and the sun / Kazuo Ishiguro -- New York : Alfred A. Knopf, 2021

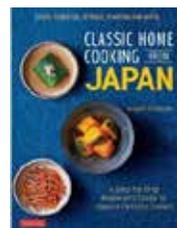
カズオ・イシグロが近未来の世界を描く。AI ロボットクララと少女ジョジーの友情の物語。ノーベル文学賞受賞第一作となる話題の長編小説。

請求記号 : C933.7-163 (横浜 2F 洋書)

Classic home cooking from Japan / Asako Yoshida ; English translation by Makiko Itoh. -- Tuttle Pub., 2020.

請求記号 : C590-28 (みなとみらい)

日本の家庭料理にフォーカスし出汁のとり方、魚の捌き方などを絵付きで解説。日常の食文化にふれることはその国をより深く理解することにも繋がるだろう。



Soul of Japan : the visible essence : annotated photographs to explain the essence of Japanese thought / photography by Katsuhiko Mizuno and Hidehiko Mizuno -- IBC Pub., 2012.

請求記号 : C150.21-1 (みなとみらい)

「侘び」「寂び」「粋^{いき}」など、日本人の心の価値観が英語で解説されている。留学生はもちろん、日本文化を英語で説明できるようになりたい方にもおすすめの一冊。

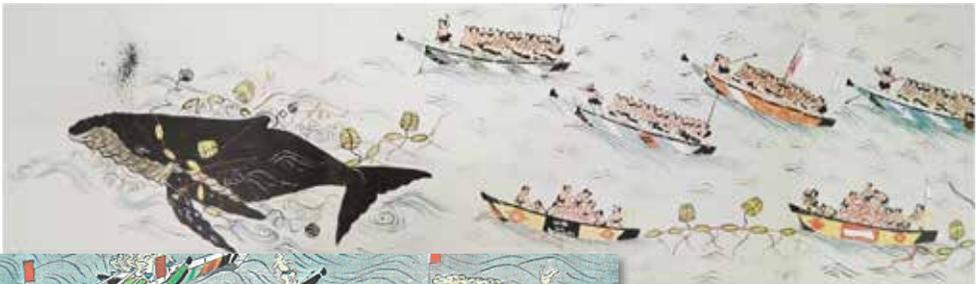
太地浦捕鯨繪巻（複製） / 熊野太地浦捕鯨史編纂委員会編 東京：平凡社, 1969年

壹の巻、貳の巻、参の巻

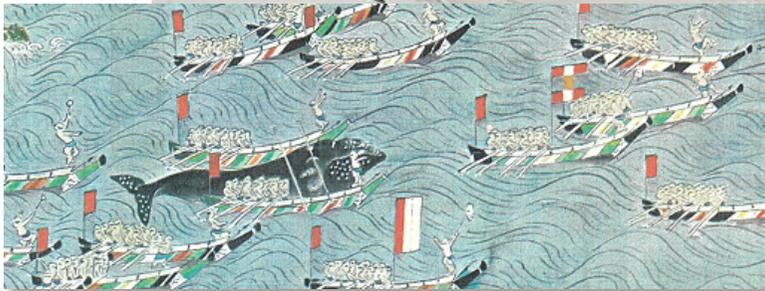
請求記号：B660-A,B.2,3-62（横浜 地下1階書庫）

和歌山県の太地（たいじ）町は古式捕鯨発祥の地である。今回紹介する『太地浦捕鯨繪巻』は、太地町の歴史と捕鯨に関わる各地の資料などを編集した『熊野太地浦捕鯨史』の別冊として刊行された繪巻（複製）である。刊行当時の解説によると太地浦捕鯨に関わる絵画や屏風、繪巻物などは20点ほど現存しているが、ほとんどが太地町から他県に散在してしまっており『太地浦捕鯨繪巻』 壹の巻貳の巻は和田光代氏蔵、参の巻は東京国立博物館蔵とされている。

この地で捕鯨を組織化し、漁を始めたのは当地の豪族である和田家一族の忠兵衛頼元で、尾張師崎の漁師伝次と泉州界の浪人伊右衛門とともに捕鯨技術の研究を進め1606年にこの地で捕鯨を始めたとされている。その後1675年に和田頼治が鯨を綱に絡め取ってから鉆を突く「網掛け突き取り法」を完成させ、これにより大型の鯨を捕ることが可能になり、太地浦の捕鯨は最盛期を迎えた。



「壹の巻：座頭鯨網掛之図」



「貳の巻：持双船（もっそうぶね）で鯨を運ぶ図」

壹の巻「座頭鯨網掛之図」では手前に鯨に網をかける網舟とその奥の鉆を打つ勢舟（せこぶね）で漁をする網掛け突き取り法が描かれる。続く貳の巻では、太い柱を渡した二艘の船に捕らえた鯨を結びつけて運ぶ様子が描かれる。

“一匹の鯨に七浦賑わう”という言葉があるように、巨大な鯨は多くの漁村に恵みをもたらす特別な存在で、やがて信仰の対象にもなった。参の巻では陸揚げされ解体された鯨の姿が描かれる。鯨の柵の周囲には、賑わう村人たちの姿がある。

明治11年（1878年）12月、のちに「大背美流れ」と伝えられる船団の遭難事故が起こり、太地浦の漁師百名以上が死亡、働き手を失った古式捕鯨は衰退していったといわれる。

現在、捕鯨については世界中で様々な意見があるようだ。しかしこの繪巻に描かれているのは、古くから伝わる捕鯨の歴史と厳しい生活環境における食文化の伝統、そして鯨に対する信仰と漁を通じてその恵みを受け取ってきた人々のいきいきとした姿である。



「参の巻：解体された鯨と村人たち」

（図書館事務部図書課 荏原 直子）

図書館からののお知らせ

横浜・みなとみらい共通

■冬季長期貸出について

対象……学部生
貸出受付期間……2023年12月2日(土)～12月26日(火)
返却期限日……2024年1月12日(金)
冊数……10冊

■春季長期貸出について

対象……学部生(卒業年次生)
貸出受付期間……2024年1月20日(土)～3月7日(休)
返却期限日……2024年3月22日(金)
冊数……10冊
対象……学部生(在校生)
貸出受付期間……2024年1月20日(土)～3月23日(土)
返却期限日……2024年4月8日(月)
冊数……10冊

■年末年始の休館日について

2023年12月27日(水)～2024年1月5日(金)

■スマートフォンのアプリを使用した図書の貸出サービスについて

図書館のカウンターに立ち寄ることなく、資料の貸出を受けることができます(一部の例外資料を除く)。貸出手続きの方法については、Ufinity簡易利用ガイドをご確認ください。



横浜

■一般公開休止について

後期試験実施に伴い、以下の期間中の一般公開を休止いたします。

期間……2024年1月6日(土)～1月29日(月)

編集後記

本学図書館では本だけでなく録音資料や映像資料といった視聴覚資料も所蔵している。古い物では16mmフィルムやスライドといった、現在では再生する機器が残っていないものもある。何らかの再生機を使わなければ視聴できない視聴覚資料は、新しい方式の機器が登場して古い機器が製造中止になると使えなくなってしまうという運命にある。

LPレコードも再生機器がなくなってしまうかと思われたが、意外なことに最近ではレコード盤もプレイヤーも生産が増えているようだ。本学図書館も5000枚以上のLPレコードを所蔵しており、年一回のイベント「図書館フェア」でLPレコードを再生してみるという体験企画を行っている。

若い学生達にとっては見るのも触るのも初めてというレコード盤。ターンテーブルにセットして自分の手で針を落としてもらう。大きなスピーカーから流れてくる深みのある音を聴くと感動した表情を浮かべる人もいる。ほとんどの人がスピーカーを通してLPレコードの音を聴いたのは初めてだという。

何十年も前にその役割を終えたと思われていたモノ達もたらす新しい体験。古い物はそれを知らない者にとっては新しい物であり新しい経験である。図書館は過去の遺物ばかり集めていると思う人もいるかもしれない。実際にはそんなイメージとは異なるのだが、古い資料を大切に保管していることはたしかだ。それゆえ、図書館は古い物から新しい体験を生み出すことのできる場所なのだろう。

遠い将来、もしかしたら本という物がその役割を終え、姿を消す時が来るかもしれない。その時、本を手にしてページをめくる、という初めての体験を若者にもたらすのは、おそらく図書館という場所になるのだろう。(N.E.)

今号の表紙

神奈川大学横浜図書館
2階ギャラリーからの眺め

春から夏にかけては木々の美しい緑が窓から見える。右手の壁にあるレリーフは本図書館設立(1980年)当時からあるもの。

